

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本目標

実践を通して、自ら学び続ける力を身につけながら、心豊かにたくましく生きていく児童の育成

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

【合言葉】みどりの子 明るく やさしく 根気よく

「自分をつくり自立する子（生きる力）」

- ・友達をつくり力を合わせる子（社会性）
- ・豊かな心をつくる子（感受性・主体性）
- ・丈夫な体をつくる子（意欲・気力・体力）
- ・確かな考えをつくる子（課題解決力）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

活気あふれる学校、やる気と自己有用感に満ちた児童、信頼される教職員を目指して、教職員が一丸となり、職務に取り組む。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

陽南地域学校園教育ビジョン]

地域に根ざした豊かな心をはぐくむ小中一貫教育 ～子供の自主的な活動を通して～

(1) 活気あふれる学校

- ・校務分掌における取組や家庭・地域との連携を推進し、「教育目標」の具現化を図る。
- ・創意ある提案や意見交換により組織力を高め、学校経営への参画意識を高める。
- ・社会の変化に対応するため、新たなことに挑戦し、明るく前向きな職場づくりを行う。

(2) やる気と自己有用感に満ちた児童

- ・児童の内面を共感的に受け止め、安心して生活できるよう、一人一人を大切にする。
- ・児童が集団の中で自分を発揮し、他と協同する体験を重ね、一人一人と集団を育てる。
- ・児童のよさや成長を見取り、認め伸ばす指導により、自尊感情、自己肯定感を高める。

(3) 信頼される教職員

- ・安全・安心な環境を整え、人権感覚を磨き、服務規律、業務の効率化を確保する。
- ・家庭や地域の声を聴き、問題点を速やかに工夫・改善するなど、誠意ある対応をする。
- ・情報を積極的に発信し、学校の姿、成果が見える指導を行い、家庭、地域の理解を得る。

4 教育課程編成の方針

- ・国、県の法令や指針、市の推進計画、スタンダード、指導の重点などを踏まえ、学校経営方針に基づき、知・徳・体の調和のとれた教育活動を展開し、教育目標の達成を期する。
- ・社会の変化へ対応できるよう、教育活動相互の関連や地域の教育資源の活用により、基礎的・基本的な知識・技能の定着、思考力・判断力、表現力等の育成、学ぶ意欲の向上を図る。
- ・児童や学校経営に関する各種調査結果を、授業改善や学校改革に生かし、教育活動の見直し、校内外の資源活用など、実態に即した教育課程の編成につなげる。

5 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

(1) 学校運営

- 一人一人と集団を育てる教育の実践、組織力・同僚性による効率的な職務の遂行、家庭・地域と一体となった取組の推進などによる、活気のある信頼される学校づくり

(2) 学習指導

- 学び合い、ともに育つ ～主体的・対話的で深い学びのある授業を目指して～

(3) 児童生徒指導

- 集団生活の中で決まりを守り、思いやりの心をもって協力して活動できる児童の育成
～ルールやマナーを守り、自他を認め合い、主体的に行動できる児童の育成～

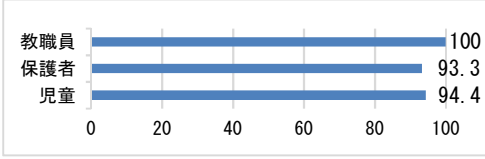
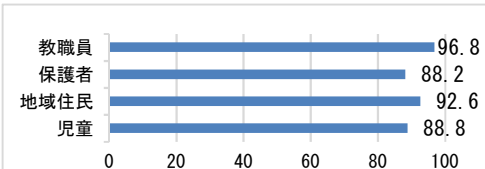
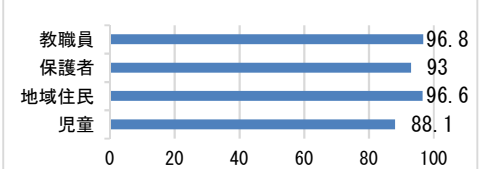
(4) 健康（体力・保健・食・安全）

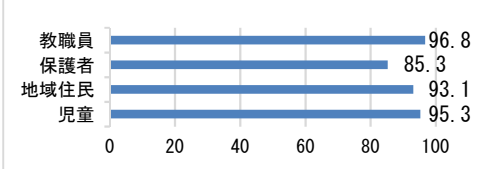
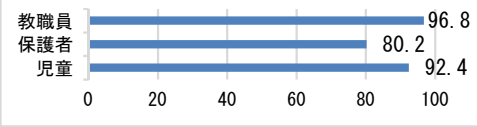
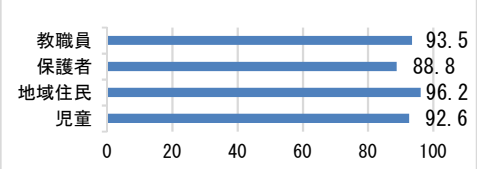
- ・「うつのみや元気っ子健康体力チェック」の結果分析を生かし、年間を通じた体力向上の取組

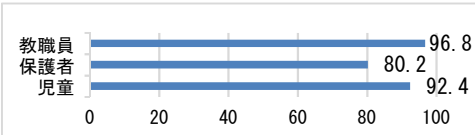
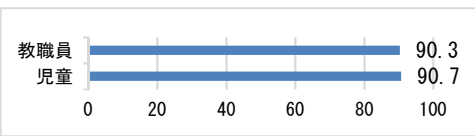
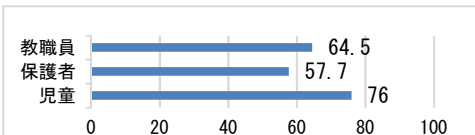
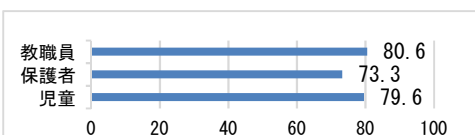
6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

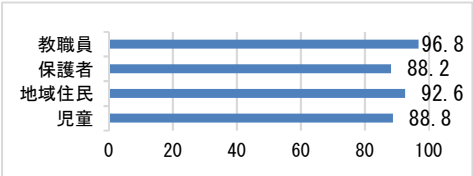
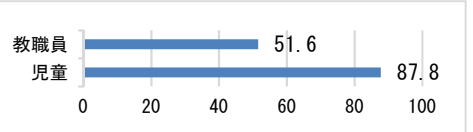
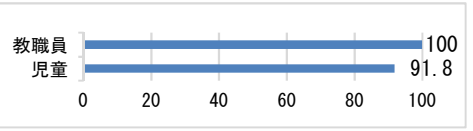
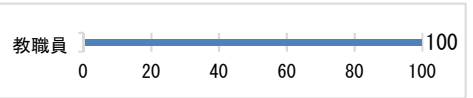
※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

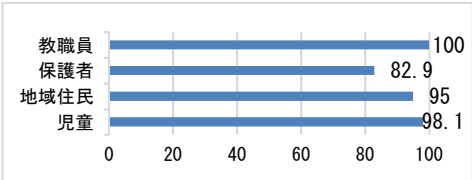
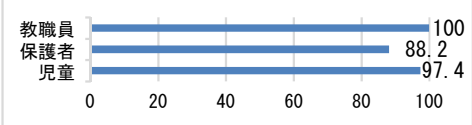
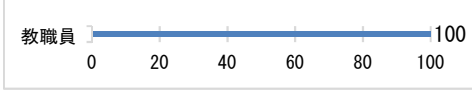
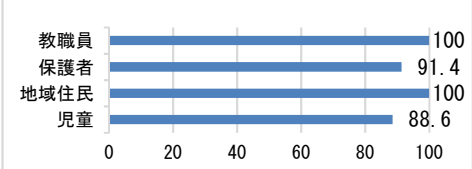
※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

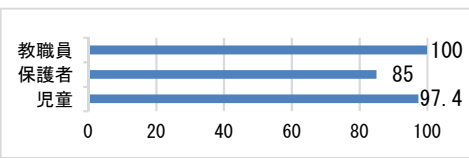
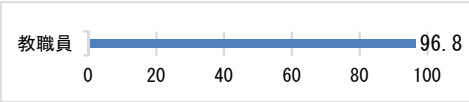
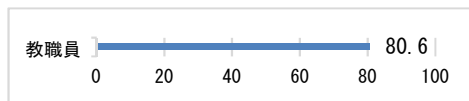
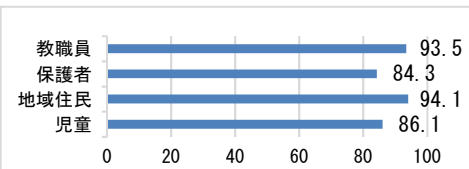
項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す児童の姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート 「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	① 基本的な学習習慣を定着させるために、授業において学習のめあてを設定し、学習形態の工夫に取り組む。また、話合いや発表の仕方を指導し定着に努める。 ② 特別活動の話合い活動の実践を他の教科等にも生かして、主体的に話合い活動を実践する力の育成を図る。	B	【達成状況】  すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員においては、100%である。 【次年度の方針】 進んで学習に取り組む児童の育成のため、児童に何を学ばせたいのか、教師が学習のねらいを明確にもち、授業内容の工夫を行っていく。自分の考えをしっかりと持って授業に取り組ませるようにする。
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	① 思いやりの心を育むために、道徳教育・人権教育を充実させ、意図的・計画的な指導の実践を図る。 ② 学校行事等の関連を図った指導の展開を行う。 ③ 相手の気持ちを考えた言葉遣いのできる児童の育成を目指し、教師の率先垂範による好ましい言語環境の構築を図る。 ④ 思いやりの心や協力しようとする態度を育むために、各種縦割り班活動（共遊・清掃・ふれあい給食・集団登校等）の充実を図る。	B	【達成状況】  すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員、地域住民においては、指標を10ポイント以上、上回る。 【次年度の方針】 思いやりの心をさらに育むために、相手の気持ちを考えた言葉遣いを意識させていく。今後も学校生活全般で、「です・ます」「さん」付けを徹底し、教職員自らが見本になるようにする。
	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】全体アンケート 「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	① 基本的生活習慣を身に付けようとする意識を高めるために、「みどりの子のやくそく」を各学級に掲示し、重点目標について繰り返し指導する。 ② 生活当番（教職員）が児童の実態から、改善に向けた生活目標を設定したり、季節や行事に合わせた生活目標を設定したりして全教職員で重点的に指導に当たる。	B	【達成状況】  すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員、保護者、地域住民においては、指標を10ポイント以上、上回る。 【次年度の方針】 「みどりの子のやくそく」への意識をさらに高めつつ、名札の着用や廊下右側歩行などの定着を図っていく。生活当番についても、今年度同様季節や行事に合わせて設定を行い、児童の実態にあわせて朝の会等で児童に伝えていく。

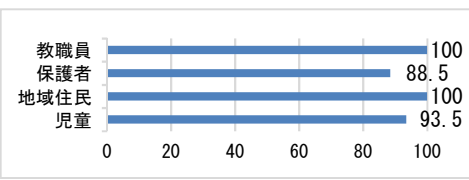
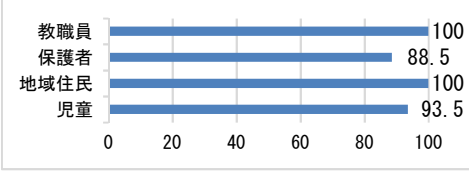
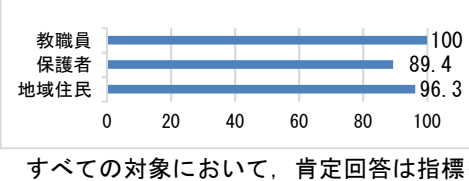
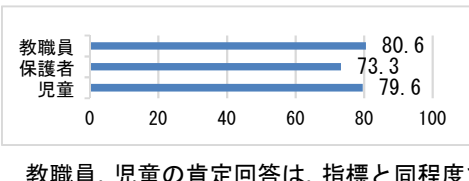
A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】全体アンケート 「児童は、時と場に応じたあいさつをしている。」 ⇒教職員・保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	① 代表委員会の計画であいさつ運動強化週間を実施したり、あいさつ標語を掲示したりするなど、児童の主体的な活動によるあいさつの励行に努める。 ② 陽南中学校地域学校園や、緑が丘小学校魅力ある学校づくり地域協議会との連携を図り、保護者、地域と連携協力したあいさつ運動を実施する。	【達成状況】  すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員、地域住民、児童においては、指標を10ポイント以上、上回る。 【次年度の方針】 代表委員会が主体となったあいさつ運動を継続し、あいさつのさらなる習慣化を図る。
A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート 「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	① やる気と自己有用感に満ちた児童を育成するために、児童の内面を共感的に受け止め一人一人を大切にする。 ② 児童が集団の中で自分を発揮し、他と協同する体験や、競い合い高め合う体験を重ね一人一人と望ましい集団を育てる。 ③ 認め伸ばす指導により自尊心、自己肯定感を高める。 ④ 児童相互に認め合う場の設定を図る。 ⑤ 挑戦意欲を喚起する課題の設定を図る。	【達成状況】  教職員、児童の肯定回答は、指標を10ポイント以上、上回る。保護者においては、指標を達成しているが、教職員と比べると、16.6ポイントの差がある。 【次年度の方針】 具体的な取組が保護者に伝わりにくい内容なので、授業参観や家庭訪問、個人懇談等を通して、学校での児童の努力や成果が伝えられるように各学級での取組を学年だより等で発信していく。
A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】全体アンケート 「児童は、健康や安全に気を付けて生活している。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	① 給食時や清掃時の身支度指導、歯みがきや保健委員会の衛生検査など、学校生活の中の様々な保健指導を通して、基本的な生活習慣を身につけ、衛生的・健康的な生活ができるよう指導する ② 安全な生活を送るため、各教科等における安全に関する指導の充実を図り、ルールやマナーの指導を徹底し、怪我や事故の未然防止に努める。	【達成状況】  すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員、地域住民、児童においては、指標を10ポイント以上、上回る。 【次年度の方針】 衛生的・健康的な生活のために、ハンカチ・ティッシュの使い方や使い時を各担任が指導する。また、歯みがき指導の際にDVDを用いて、各学級で視聴しながらできないか、資料収集をする。 安全な生活を送るためには、「みどりの子のやくそく」の共通理解を、各学級で徹底する。

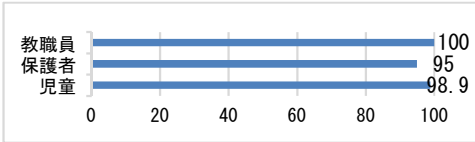
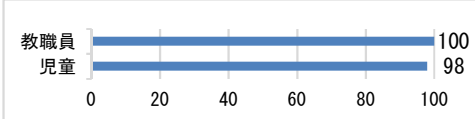
A 7 児童は、夢や目標をも って、社会に貢献できる よう努力している。 【数値指標】全体アンケート 「私は、夢や目標に向かっ てあきらめずに、粘り強く取 り組んでいる。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定 的回答 80%以上	① 望ましい勤労観・職業観の形成 を図るために「宮・未来キャ リア教育」の充実を図り、年間 指導計画に基づいた意図的・計 画的な指導の展開を行う。 ② 地域の人材を活用した「プロに 学ぶ仕事教室」を開催し望まし い勤労観・職業観の形成や夢や 目標をもつ参考にする。	【達成状況】  <table><tr><td>教職員</td><td>96.8</td></tr><tr><td>保護者</td><td>80.2</td></tr><tr><td>児童</td><td>92.4</td></tr></table> 教職員、児童の肯定回答は、指標を 10 ポイ ント以上、上回る。保護者においては、指標を 達成しているが、教職員と比べると、16.6 ポイントの差がある。 【次年度の方針】 学校で行っているキャリア教育について、 学年だよりや学校だより等で家庭に知らせる など、保護者の理解を深めるとともに、協力を 得る。	教職員	96.8	保護者	80.2	児童	92.4
教職員	96.8							
保護者	80.2							
児童	92.4							
A 8 児童は、英語を使って コミュニケーションして いる。 【数値指標】全体アンケート 「児童は、外国語活動の授業 や ALT との交流の際に、英語 を使ってコミュニケーション している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上	① 教材研究の工夫や A L T との連 携により、英語によるやりとり を中心とした授業実践の推進を 図る。 ② 学校行事等への A L T の参加や A L T との交流の場の工夫を行 い、生きた英語に触れる機会の 充実を図る。 ③ 教材等、備品の管理や校内掲示 の工夫を行い、外国語活動に向 けた環境整備の推進を図る。	【達成状況】  <table><tr><td>教職員</td><td>90.3</td></tr><tr><td>児童</td><td>90.7</td></tr></table> 教職員、児童の肯定回答は、指標を 10 ポイ ント程度、上回る。 【次年度の方針】 今後も A L T と連携して授業づくりを進 め、児童が英語を使ってコミュニケーション を図っていけるようにする。	教職員	90.3	児童	90.7		
教職員	90.3							
児童	90.7							
A 9 児童は、宇都宮の良さ を知っている。 【数値指標】全体アンケート 「私は、宇都宮の良さを知っ ている。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定 的回答 80%以上	① 生活科・社会科・総合的な学習 の時間等の学習において、地域 や郷土に関連付けた課題の設定 を行う。 ② 特別活動（学校行事等）・校外学 習における体験的な学習の場 の設定を行い、児童が郷土宇都宮 に対する理解を深められるよう 、発達段階に応じて郷土に関 する学習を推進する。	【達成状況】  <table><tr><td>教職員</td><td>64.5</td></tr><tr><td>保護者</td><td>57.7</td></tr><tr><td>児童</td><td>76</td></tr></table> すべての対象において、指標を達成せず、教 職員は 15.5 ポイント、保護者は 22.3 ポ イント、指標を下回る。 【次年度の方針】 社会科・総合的な学習の時間等で宇都宮学 の学習を進め、宇都宮のよさを感じさせ、自分 の地域への愛着を深める。	教職員	64.5	保護者	57.7	児童	76
教職員	64.5							
保護者	57.7							
児童	76							
A 10 児童は、I C T 機器や 図書等を学習に活用して いる。 【数値指標】全体アンケート 「児童は、パソコンや図書等 を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上	① 授業における I C T 機器の効果 的な活用や「情報モラル教育」 の実践を通して、情報活用能力 の育成を図る。 ② 図書資料を有効に活用した学び を充実させるために、学習ニー ズの把握に基づいた関連図書情 報の提供や市立図書館と連携し た授業実践を図り、学校図書館 の整備を推進する。	【達成状況】  <table><tr><td>教職員</td><td>80.6</td></tr><tr><td>保護者</td><td>73.3</td></tr><tr><td>児童</td><td>79.6</td></tr></table> 教職員、児童の肯定回答は、指標と同程度で あり、保護者においては、指標を 6.7 ポイ ント、下回る。 【次年度の方針】 学校図書館の活用については、司書業務嘱 託員と連携を図り、今後も継続して授業を実 践していく。また、授業のねらいや目的に合わ せて、パソコンやタブレットを効果的に活用 する授業づくりを目指す。	教職員	80.6	保護者	73.3	児童	79.6
教職員	80.6							
保護者	73.3							
児童	79.6							

A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】全体アンケート 「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	① 高齢者への感謝や敬う心を育むために、運動会や交流会・感謝の会などの学校行事等への案内・招待を積極的に行う。 ② 生活科における昔遊び体験における交流活動の推進を図り、高齢者と触れ合う機会の充実に努める。	【達成状況】  すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員、地域住民においては、指標を10ポイント以上、上回る。 【次年度の方針】 運動会や交流会を中心とした学校行事や生活科での学習で、地域の高齢者の方々と触れ合う機会がたくさんあり、児童には感謝や敬う心が育っていると考えられる。継続して活動を行っていき、年長者への感謝や敬う心を育成していく。
A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】全体アンケート 「児童は、環境問題や防災等の『持続可能な社会』について、関心をもっている。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	① 生活科・総合的な学習の時間における活動において「持続可能な社会」と関連付ける学習活動の見直しや児童の実態に応じた具体的な活動内容の検討を行い、年間指導計画を作成する。 ② 「持続可能な社会」に対する児童の関心を高めるため、牛乳パックやエコキャップ収集に、地域協議会やまちづくり協議会とともに取り組む。	【達成状況】  児童の肯定回答は、指標を達成しているが、教職員においては、指標を28.4ポイント下回り、児童と比べて36.2ポイントの差がある。 【次年度の方針】 環境委員会が行っている牛乳パックのリサイクルやエコキャップ収集などの活動や節電・節水などの取組について、教職員が児童に、その活動の意味や効果について指導していく。
B1 児童は、体力づくりに関心を持ち、進んで体力の向上に励んでいる。 【数値指標】児童・教職員アンケート 「自分は、運動集会や、検定するとき、目標に向かって努力している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上	① 運動集会（ドッジボール・なわとび）や各種検定カードの効果的な活用を図り、自分のめあてに向けた体力づくりの推進に取り組む。 ② 「うつのみや元気っ子健康体力チェック」の結果分析を生かし、年間を通した体力向上に取り組む。	【達成状況】  教職員・児童の肯定回答は、指標を10ポイント以上、上回る。 【次年度の方針】 体育の授業等で、短距離走など全力で走る機会を継続して設けると共に、長期休業中の運動について再考する。
A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① おはなしタイム（教育相談）や保護者との懇談を通した児童理解の推進を図る。 ② 校内支援委員会やケース会議を活用して、指導目標・指導の手立て等の検討を行い、組織的指導の充実に努める。 ③ 困り感を抱えた児童が自信をもって生活できるよう、かがやきルームにおける指導の充実に努める。 ④ 個別支援計画の作成を行う。	【達成状況】  教職員の肯定回答は100%である。 【次年度の方針】 おはなしタイムの活用により、児童理解が深まっている。校内支援委員会により学校全体での情報の共有と組織的な対応ができており、今後も継続していく。かがやきルームでの指導も充実しており、今後も継続していく。

目 指 す 学 校 の 姿	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】全体アンケート 「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上	① 学年・学級懇談会や学校だより、HP 等で積極的に学校の方針を説明・公表するとともに、保護者や地域といじめに関する情報交換に努める。 ② 「いじめは絶対に許さない」、「いじめには大人が介入する」を全教職員で認識し、児童の主体的な取組（いじめゼロ集会）も促しながら、未然防止、早期発見・早期解決に組織的に取り組む。 ③ 「いじめゼロ集会」の実施を行い、いじめゼロ強調月間の取組の充実を図る。 ④ おはなしタイム（教育相談）、Q-U 検査等を活用した実態把握の工夫や年4回のいじめアンケートの実施と結果の効果的な活用を図る。	【達成状況】  すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員、地域住民、児童においては、指標を10ポイント以上、上回る。 【次年度の方針】 いじめの早期発見や対応に努め、早期解決に組織的に取り組んでいく。また、いじめが解消した後も、関係児童の心のケアをしっかりと行い、学校生活へ不安が残らないように支援していく。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】全体アンケート 「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上	① 学年・学級経営計画に基づいた意図的・計画的な指導や教師と児童の協働・共遊を通して、明るく活力に満ちた学級風土づくりを推進する。 ② おはなしタイム（教育相談）・Q-U 検査の結果やスクールカウンセラーの効果的な活用に努め、児童の内面を共感的に受け止め児童一人一人を大切にする。 ③ 欠席状況共有シートや日々の様子の記録等を活用した情報共有を推進し、対策委員会での共通理解に基づいた組織的計画的な支援を推進する。 ④ 家庭訪問や別室登校支援等、児童の実態に応じた支援策の工夫に努める。	【達成状況】  すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員においては、100%である。 【次年度の方針】 不登校児童や長期欠席の児童は前年度よりも大幅に減少している。次年度も児童の内面を共感的に受け止めることや、居心地の良い学級づくりを進め、明るく活力に満ちた学級風土づくりを推進する。
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】全体アンケート 「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 充実した学校生活を送れるよう、実態把握に基づいた教育課程や支援計画を作成し、適切な指導・支援を推進する。 ② 効果的な支援に向け、日本語指導講師・関係機関との積極的な連携を図る。	【達成状況】  教職員の肯定回答は100%である。 【次年度の方針】 児童・保護者の実態に合わせ、市の関係機関と連携しながら対応していく。また、地域人材や資源の活用や、PCタブレットの利用を行い支援が円滑にできるように努める。
	A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】全体アンケート 「私は、今の学校が好きです。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	① 児童の学習意欲を高める授業を工夫する。（学習課題設定の工夫による一人一人に学びのある授業の実践・人材活用等の工夫） ② 学級活動や縦割り班活動、みどりタイム等で、話し合い活動を意図的に取り入れ、児童の主体的な活動を推進し、豊かな人間関係を構築する力を育てる。	【達成状況】  すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員、地域住民においては、100%である。 【次年度の方針】 継続して児童の学習意欲を高める学習課題を設定し、児童の主体的な活動を取り入れた学級活動や縦割り班活動、みどりタイムの充実を図り、豊かな人間関係を構築していく。

A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】全体アンケート 「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる。」 ⇒児童・保護者の肯定的回答 80%以上	① 授業研究に積極的に取り組み、児童一人一人が意欲を持って取り組める分かる授業の工夫に心がけ、学力向上に努める。 ② スキルタイム(朝の学習)を充実させるとともに、家庭学習について「家庭学習のヒント集」(陽南地域学校園)を活用し、具体的な指導・支援を行うことにより、基礎・基本の確実な定着を図る。 ③ T・Tによる学習や少人数による習熟度別学習を充実させるとともに、特別支援教育の考え方を生かした指導を行うことで、個に応じた指導の充実を図る。	【達成状況】  すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員においては、100%である。 【次年度の方針】 児童一人一人が意欲をもって取り組み、分かる授業の実践のために、今後も、授業研究に積極的に取り組んでいく。 「家庭学習のヒント集」(陽南地域学校園)を基に、各学年やブロックの実情に応じて、創意工夫をし、活用していく。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート 「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 管理職(副校長)による総合的な連絡調整の実施に努める。 ② 業務担当教職員との綿密な打ち合わせの実施を図る。 ③ 各スタッフによる関係教職員への積極的な情報提供の推進に努める。 ④ 校内支援委員会等の各種委員会に専門性を有するスタッフも組織の一員として位置づけ、積極的な情報提供や意見を反映できるようにしていく。	【達成状況】  教職員の肯定回答は、指標を10ポイント以上、上回る。 【次年度の方針】 単一の校務分掌では、対応できない事案に対しては、児童・保護者の実態に合わせて、多角的に対応したり、支援したりできるようにする。
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート 「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 専門スタッフの役割を明確化し、学校業務の見直しを図る。 ② 年間を通して計画的に、多様な専門性を有する学校スタッフの活用を図り、安定した教育活動を進める。	【達成状況】  教職員の肯定回答は、指標と同程度である。 【次年度の方針】 事務職員、栄養士、図書嘱託員などの専門スタッフと連携・協力して職務に当たるよう引き続き努める。計画的にそれぞれの役割において教育活動を進めていく。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】全体アンケート 「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている。」 ⇒児童・教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	① 地域学校園として、各教科で身に付けさせたい力を年間指導計画に位置付け、教職員が9年間で児童を育てる意識がもてるようにする。 ② 小中一貫教育研修会の各部の話し合いの内容や乗り入れ授業の内容を全体に周知し、共通理解を図る。 ③ 給食だよりや図書館だより等の地域学校園共有発行を推進する。 ④ 小中合同のあいさつ運動や中学校訪問の機会を通して、児童生徒相互の交流を推進する。	【達成状況】  すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員、地域住民においては、指標を10ポイント以上、上回る。 【次年度の方針】 地域学校園内の職員の協力体制により、学校業務の効率的、効果的な取り組みを今後も進める。様々な場面において、児童生徒相互の交流の推進に努める。

A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】全体アンケート 「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい。」 ⇒児童・保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	① 多くの教科や活動で学習支援ボランティアの協力を得るため、地域協議会を中心としてボランティアを組織化し学校と地域の連携を図る。地域資源や人材などの教育力を生かした体験型学習の充実を目指す。 ② 緑が丘小地域協議会に学校の情報を提供するとともに、地域協議会の活性化と活動の充実を図る。 ③ まちづくり協議会や地域協議会と連携して、「あいさつ運動」や「エコキャップ運動」等の活動に取り組む。	【達成状況】  すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員、地域住民においては、100%である。 【次年度の方針】 新たな学校支援ボランティアの声を発信することでさらに拡充を図り、地域資源や人材などの教育力を生かした体験型学習の充実を目指す。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】全体アンケート 「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい。」 ⇒児童・保護者・地域住民の肯定的回答 80%以上	① 学校便り、学年便り、保健便り、食育便り、図書館便り等の工夫と定期的発行やホームページでの情報の積極的な発信・提供を行い、家庭・地域・企業等との連携・協力を推進する。 ② 生活科や総合的な学習の時間における体験活動を中心とした交流活動の推進や地域団体・地域人材の積極的な活用を通して、地域と共に歩む魅力ある学校づくりを推進する。	【達成状況】  すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員、地域住民においては、100%である。 【次年度の方針】 引き続き計画的に各便りを発行したり、ホームページを更新したりして、情報の積極的な発信・提供を行う。体験的な学習には、地域の施設（ふれあいコーポ）や企業（SUBARU）などと連携・協力を努める。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】全体アンケート 「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。」 ⇒教職員・保護者の肯定的回答 80%以上	① 縦割り班清掃活動の児童と教師の協働による日常の清掃活動等を充実させ、環境の美化に努める。 ② 長期休業前の清掃強化週間の有効活用や奉仕活動の充実を図る。 ③ 地域協議会と連携した緑化活動の推進に努める。 ④ 安全点検結果に基づく、修繕補修を迅速に行い、安全な学習環境づくりを推進する。 ⑤ 日常点検、定期点検等の安全点検を実施して、関係職員と連携した計画的な修繕の実施に努める。	【達成状況】  すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員においては、100%である。 【次年度の方針】 児童の目線に立って引き続き日々の日常点検を行い、修繕が必要な個所については、補修を迅速に行う。計画的に教材教具・物品の整理や補修して、安全な学習環境づくりに努める。
A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】全体アンケート 「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上	① 情報教育を推進するために、パソコン室の整備やICT機器の集中管理の徹底を図り、ICT機器の利用環境整備に努める。 ② 図書資料を有効に活用した学びを充実させるために、教育課程に即した図書選定を行い、学校図書館の整備を推進する。 ③ 市立図書館と連携した希望図書の有効活用を図る。	【達成状況】  教職員、児童の肯定回答は、指標と同程度であり、保護者においては、指標を6・7ポイント、下回る。

			【次年度の方針】 実物投影機を各教室に置くか、デジカメとテレビをつなぐ端子を整備するなど、各教室でのＩＣＴ機器の利用環境を整える。また、タブレットや Wi-fi のルーターを職員室に置いて活用しやすくするなど、セキュリティの問題を解決しながら、分散管理の方向性を探る。								
	B 2 危機管理対策等を充実させる。 【数値指標】保護者アンケート 「学校は、避難訓練や引き渡し下校を行ったり登下校の見守り等にボランティアを活用したりして、危機管理対策を充実させている。」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 登下校の児童の安全については、地域の実情に応じてボランティアや保護者の協力を依頼する。 ② 災害時の児童引き渡しや竜巻の時の行動の仕方を理解させ、訓練で実践化を図る。 ③ 不審者侵入対策の避難訓練の工夫をする。	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>達成率</th></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td></tr><tr><td>保護者</td><td>95</td></tr><tr><td>児童</td><td>98.9</td></tr></table> すべての対象において、肯定回答は指標を達成し、教職員においては、１００％である。 【次年度の方針】 有事の対応が全校で揃うよう、想定した訓練を行う。登下校についても、児童一人ひとりが自らの命を守れるよう、安全指導を継続する。	対象	達成率	教職員	100	保護者	95	児童	98.9
対象	達成率										
教職員	100										
保護者	95										
児童	98.9										
本校の特色・課題等	B 3 豊かな人間関係力を育てる場を工夫し、社会性の育成に努めている。 【数値指標】児童・教職員アンケート 「縦割り活動で、他の学年の友達と協力して進んで活動している。」 ⇒児童・教職員の肯定的回答 80%以上	① 特別活動の研究を生かし、児童会活動や縦割り班活動がより児童の主体的な活動となるよう工夫する。 ② 委員会活動や学級活動において子どもたちによる自治的な活動を実践する。子どもたちの良さを生かしてみんなに認められ、自己肯定感を感じられる場を意図的に設定する。	【達成状況】  <table><tr><th>対象</th><th>達成率</th></tr><tr><td>教職員</td><td>100</td></tr><tr><td>児童</td><td>98</td></tr></table> 教職員、児童の肯定回答は、指標を１０ポイント以上、上回る。 【次年度の方針】 次年度の方針】 今後も、縦割り班活動、委員会活動、クラブ活動や児童会活動を通して、豊かな人間関係力を育てていく。	対象	達成率	教職員	100	児童	98		
対象	達成率										
教職員	100										
児童	98										

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

1 目指す児童の姿

- ・ 「目指す児童の姿」に関する質問 13 項目中 10 項目で数値指標を達成した。その中でも、すべての対象において、市の肯定的回答割合を上回る項目は、次の 5 つである。
「進んで学習」「きまりやマナー」「時と場に応じたあいさつ」「目標達成への取組」「社会貢献への努力」
教職員が、基本的生活習慣の定着、規範意識の高揚、学習意欲の向上、夢や目標実現へ向け努力することの大切さなどを指導してきた成果と考える。
- ・ 「目標達成への取組」について、教職員と保護者の肯定的回答割合を比べると、96.8%、80.2%と16.6ポイントの差がある。めあてに向け努力し達成感を味わったり、キャリア教育において自分のよさに気づき社会に生かそうとしたりするなど、自己有用感や勤労意欲を高める指導について、保護者と取組状況を共有する必要がある。
- ・ 「思いやりの心」について、数値指標を達成しているが、地域住民の肯定的回答割合は、市を3.5ポイント下回る。今後、誰に対しても思いやりをもち接する態度を、生活目標や日常の言葉づかいなどを通して育てるとともに、運動会やお年寄りとの交流会などの行事においても、感謝の気持ちを高められるよう、事前から事後にわたり丁寧に指導する。
- ・ 数値指標を達成していない項目は、次の3つである。
「宇都宮の良さの理解」「ICT機器や図書の活用」「持続可能な社会への関心」
児童が、宇都宮の良さや、その良さを維持、強化し持続可能にする必要性を理解できるよう、教科等の学習（社会、総合的な学習の時間）や環境教育などの計画を見直す。
また、児童が、ICT機器や図書の活用能力を高められるよう、授業のねらいを踏まえて使用場面を増やしたり、実物投影機を各教室に置くなど使いやすい環境を整えたりする。

2 目指す学校の姿

- ・ 「目指す学校の姿」に関する質問 15 項目中 14 項目で数値指標を達成した。その中でも、複数の対象において、肯定的回答割合が90%を超えるなど顕著な項目は、次の5つである。
「いじめ防止への指導」「地域の教育力を生かした教育活動」「家庭・地域・企業等との連携」
「安全確保などの危機管理対策」「社会性の育成」
学校が、家庭・地域に情報を発信し、地域とともにある学校づくりを進め、学校で児童と地域住民が交流する機会を拡充したり、登下校時の見守りボランティアと情報を共有したりするとともに、教職員が、友達と協調し認め伸ばす指導を行った成果と考える。
- ・ 「業務の効率化」について、数値指標を達成しているが、教職員の肯定的回答割合は、市を4.3ポイント下回る。年度末、各種教育活動について、業務の効率化の視点での反省を引き継ぎ、次年度に生かすとともに、事務職員や栄養士など、専門スタッフの学校運営へのさらなる参画を図る。
- ・ 数値指標を達成していない項目は、次の1つである。
「ICT機器や図書の活用」（再掲）

7 学校関係者評価

1 全般的事項

- ・ 数値指標の達成度から成果と課題を整理し、次年度の方針を策定しており、マネジメントの機能を生かした評価をしている。
- ・ 地域として力を入れている「あいさつ」、「安全確保」、「学校づくりへの支援」、また、地域でも心配している「いじめ防止」などにおいて、市の肯定的回答割合を上回る結果を得ており、学校経営は、概ね順調だと考える。
- ・ 質問に使われている用語について、各対象において、共通の認識をもち回答できるようにすると、数値の妥当性が高まるのではないかと考える。

2 項目別事項（市の肯定的回答割合を下回っているものを中心に）

- ・ 「英語を使ったコミュニケーション」
児童が、どのような場面で英語を使っているのか、見えない部分はあるが、ALTが定期的に訪問していると聞いているので、授業以外での交流などを取り入れてはどうか。
- ・ 「宇都宮の良さ」
宇都宮の良さを知ることとともに、地域の良さを紹介し、地域への理解や愛着を深め、地域の良さを守る心情や態度を育ててほしい。
- ・ 「業務の効率化」
教職員が、児童と向き合う時間を確保するためにも、勤務時間を意識し、業務の効率化を図る必要があると考えるので、より積極的に取り組んでほしい。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

【学校運営】

- ・ 児童の自己有用感を高めるため、望ましい人間関係を確立し、共に学び育つ体験を重ねてきた成果が表れており、引き続き、一人一人と集団を育てる教育を推進する。
- ・ 活気のある信頼される学校づくりに向け、児童と地域住民の交流を拡充したり、地域の豊かな教育資源を活用したりするとともに、業務の効率化に組織的に取り組む。

【学習指導】

- ・ 児童の学力、学習意欲を高めるため、授業を、学び合い、共に育つ場とし、話し合いを通して理解や考えを深めたり、新たな発見や発想を得たりできるようにする。
- ・ 郷土への愛情や情報活用能力を育てたり、環境問題への関心を高めたりするため、教職員が地域教材やICTなどへの理解を深め活用できるよう、学校体制で取り組む。

【児童生徒指導】

- ・ 児童の規範意識や思いやりの心を育てるため、気持ちの良いあいさつを奨励し、ルールやマナーを守ることや自他を認め助け合うことの大切さを体験できるようにする。
- ・ いじめの根絶に向け、いじめは絶対に許さないという決意を浸透させ、児童主体の集会を企画したり、共感的な教育相談を行ったりして、いじめの起きにくい環境をつくる。

【健康（保健安全・食育）・体力】

- ・ 児童が、健康で安全に過ごせるよう、身支度や歯磨きなどの保健指導、手洗いやうがいなどの感染症予防、けがの未然防止への方策など、学校体制で共通実践できるようにする。
- ・ 児童の体力向上、運動習慣の定着に向け、「健康体力チェック」や各種検定における自己目標に粘り強く取り組む態度を育てたり、日常生活において体を動かす機会を確保したりする。